

かけこ

第 3 号
平成 24 年盛夏
発行
真龍山大雄寺
北見市留辺蘂町宮下町 109
TEL 0157-42-2418
FAX 0157-42-2748



昭和 11 年 大雄寺青年団修養会 於大雄寺

今年もまたお盆の時期となりました。私達も毎年、決まったお参りをしていますと「ああ、もうお盆の季節なんだなあ」と一層、一年の過ぎ行く早さを感じます。また、お盆は普段、お参りに行くのが難しい遠方の檀信徒の方の所にも行くので、久しぶりに変わらぬ姿をお見受けする事が出来るのは大変、喜ばしい事でもあります。

この一年は「東日本大震災」の傷もまだ癒えぬ中ではありますが、様々な自然災害、刻々と変わる社会情勢と、私たちの取り巻く環境の変化を感じずにはいられません。日本全体に目を向ければ、「少子高齢化」はますます進み、家族のコミュニティー、地域のコミュニティーの崩壊が原因と思われる事件・事故をテレビで聞かない日はありません。この留辺蘂の町も例外では無く、基幹産業であった木材産業も衰退し、人口も減り続け、まさに過渡期を迎えている状況であります。

家族単位で見れば、今まで先祖代々受け継いできた「御骨」や「御位牌」を守っていく事も非常に難しい問題になりつつあります。息子がいても都会に行ってしまうている、娘がいても嫁いだ先と両方見ていくのは難しいという相談は年々増えてきています。もちろん最後の受け皿にはお寺があります。いかに後世にその思いを伝えていくのか、次の世代に安心して任せられるにはどうしたらよいのか。家族・地域・お寺、全てで考えていかななくてはなりません。

そのような中でも、手を合わす所があるという喜び、供養させてもらっている喜びというのを感じながら日々を送ることが出来れば、自然と正しい道に進んで行くものだと思います。

合掌

お寺の動き

講演会 於大雄寺本堂

昨年の九月二十三日、秋の彼岸会法要に合わせ、講師の田辺鶴瑛氏を招き「ほつとけ心であつぱれ介護」と題し講演会を開きました。当日はたくさんの方の聴衆の方が集まりました。田辺鶴瑛氏本人の介護経験も交えた楽しい講演を聞くことが出来ました。今は「無縁死」「老々介護」といった言葉に代表されるように、両親や伴侶をどのように見送り、また自分自身もどのように見送られたらよいのか、という事は切実な問題であります。介護されている方は、自然と地域のコミュニティーからも離れていってしまう、悩みや苦しみを自分一人で抱え込んでしまう事も少なくありません。そのような中で、世代の違う方と接する事で気付く事もたくさんあると思います。これからお寺では、様々な催し物を予定していますので積極的に参加して下さい。



阿修羅像 興福寺 藏

旭公園 堀貞夫画

平成二十四年度役員

- | | | |
|-----|------------|-------------|
| 住職 | 米田 廣章 | 加藤 昌男 (旭中央) |
| 副住職 | 米田 憲人 | 小熊 正三 (旭中央) |
| 総代 | 戸田 健司 (大富) | 荒木 正憲 (旭一区) |
| 世話人 | 八巻 正一 (宮下) | 佐々木勝太郎 (豊金) |

大雄寺行事予定

- | | | |
|---------------------|--------------------------|---|
| 8 月 16 日 | 孟蘭盆施食会
新亡施食会
一般施食会 | 午前 11 時より
午前 11 時半より |
| 9 月 23 日 | 秋彼岸会 | 午後 1 時より |
| 10 月 17 日 | 成道会 | 正午 12 時より
・ 11 時頃より昼食が出ます。
・ 御本山布教師様の御話しが御座います。 |
| 2 月 18 日 | 御涅槃会 | 正午 12 時より
・ 11 時頃より昼食が出ます。
・ 御本山布教師様の御話しが御座います。 |
| 3 月 21 日
又は 20 日 | 春彼岸会 | 午後 1 時より |

仏事

Q & A

知ってるつもりでも、わからないことが多い仏教用語もあるようです。そこでQ&Aのコーナーを設けました。

Q 私達、禅宗の正しい焼香の作法はあるのでしょうか？

A 檀家さんとお話ししておりますと、法事や葬儀の席での焼香の仕方に戸惑う方も多いようです。もちろん宗派によって異なりますが、私達の宗派では、①合掌②主香③従香④合掌の流れになります。主香は故人の冥福を祈ってお香、従香は最初の主香が消えないように抹香を加える事です。ただ作法も大事ですが、やはり心ある合掌が何より大切な事だと思います。

①合掌



①数珠を左手に持って祭壇の前に進み、僧侶に一礼、数珠をかけて仏前に合掌 礼拝する。

②主香



②左手をそえて、抹香を額の前に軽くささげ、香炉に入れる。

③従香



③2回目は従香なので、抹香をつまみ、そのまま香炉に入れる。

④合掌



④もう一度、数珠をかけて仏前に合掌礼拝する。

Q よく「永代供養」という言葉を聞きますが、どのような意味なのでしょう？

A 「永代供養」とは、私達（お寺）が、引き取り手のないお骨を預かり、また先祖の供養を代わりにしていく事です。生前に永代供養料を納めた方は、きちんと引き継ぎが出来るのですが、そうでない方は「無縁仏」という事になってしまいます。もちろんそれぞれの家庭の事情もありますので、ご心配・ご質問のある方はお寺の方に相談下さい。

心温まる禅語

にちにちこれこつじつ

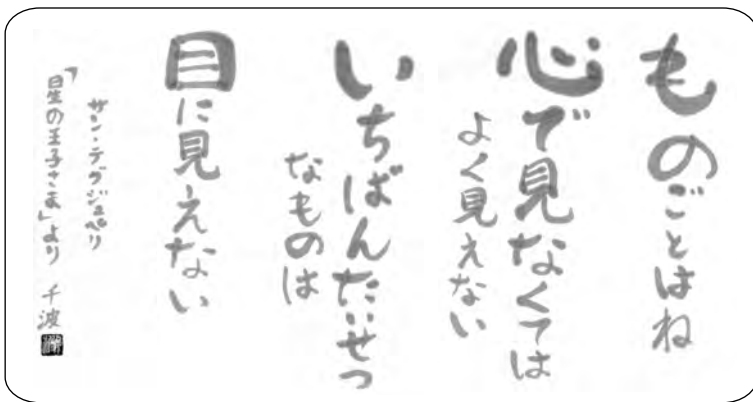
日日是好日

「日日是好日」の言葉は、禅語としても親しまれ、床の間の掛け軸や色紙によく見受けられます。文字の上からすれば、来る日も来る日も毎日が好い日であるという、きわめて優しい意味です。しかし、私たちの目にする禅語というのは、ほとんど昔の禅僧が残した禅問答の一節であります。今回は「日日是好日」の出来た禅問答を振り返ってみましょう。

雲門和尚が弟子たちに向かって言った。
「今日までのことは問わぬ。今日以後について自分の心中の程を言葉にして言ってみよ。」

それを聞いた弟子達であったが、師匠の問いに答える気概のある者はいなかった。それを見た雲門和尚が弟子たちに代わり、自分で答えた。
「日日是好日」と。

これが当時、残されていた禅問答を現代の言葉に分かり易く変えて載せてみました。私たちは兎角、自分の都合の良いように物事を考えてしまいがちであります。けれども、一歩下がって見たならば、良い悪いというのは自分の都合であって全てに意味があるんだ、という事なんだと思います。人生論でいうならば、「晴れた日は晴れた日を愛し、雨の日は雨の日を愛す、楽しみあるところに楽しみ、楽しみ無きところに楽しむ」という作家の吉川英治さんの言葉にも通じます。今日、この一日をいかに意味のある一日に変えていくか、この問答は問うているのではないのでしょうか。



アントワーン・ド・サン＝テグジュペリ著「星のおうじさま」より 書 坂本千波 (高3)

「感応動交」

「星のおうじさま」は世界で広く読まれた著書で皆さんも耳にした事はあると思います。これはある檀家の娘さんが、その中の一節を取り上げ、自分の手で再び書いた作品であります。私はこれを見た時「ああ、この子はこれに何か感じるものがあつたんだなあ」と感心したものでした。仏教では「感応動交」という

言葉があります。「感応動交」とは、物事に気付く、悟るという事です。もしかしたら、この言葉を見ても何も感じない人がいるかもしれない。けれど自分は何かを感じる事が出来た。それが「感応動交」であります。この世の中にはそれこそ、心で見えない大切なものがたくさんあります。その大切のものを見落とさないよう普段から心掛けて生活していきたいものです。

編集後記

▼話によると、この留辺薬が合併した北見の中で一番、高齢化率が高いそうです。街中をお参りして回れば「なるほどそういう訳か」と納得せざるを得ない事も多々あります。私達、大雄寺を今まで支えて頂いていた世話人、お手伝いの方も高齢になりつつあります。そういう面からもやはり、お寺もこれからの過渡期をどう乗り越えるのか、私達も向き合っていかなければならない問題なんだろうとひしひし感じます。
(副住職)